

第二回 NSK48 検討会議を5月29日（火）アスト津交流センターにて行いました。今回は（株）鈴鹿みどりの大地 代表取締役 後藤博英氏にも加わっていただきました。後藤氏は長く県職員として農業行政に深く関わってこられました。その後早期退職されて自ら農産物の販売や農業レストランを立ち上げ農業経営を広く実践されております。障がい者雇用にも理解があり、障がい者の作る農産物を積極的に取り扱ったりされています。また後藤氏はNPO法人人材育成センターが実施している職業訓練「実践農業基礎科」の講師もしていただいています。



写真は障がい者雇用に関して熱心に語る後藤氏（左から4人目）

行政の視点と実践経営の視点の両方から貴重な意見をいただきました。

今回の会議の内容は農業経営体へ障がい者雇用に関するアンケートを出すにあたり、その意味と内容について討議しました。主なやりとりは以下のようなものでした。

- ・アンケートは何を意図しているのかわからない。人手を補うことなのか？
- ・アンケートとは別に目的の主旨を別紙で作し、思いを入れる必要がある。
- ・障がい者を雇用するなら障がいの度合いをはっきりさせる必要がある。
- ・まずは現状把握をし、戦力となる障がい者を雇用していく。
- ・障がい者雇用をする場合、条件整備が必要である。一人で動けるのかとか。
- ・農業を楽しい仕事と感じてもらい。また継続性があるものでないとダメ。
- ・外国人研修生と同じ安価な労働力を期待するような扱いではダメ。
- ・障がい者が農業の仕事をするきっかけを作るべきである
- ・対象は障がい者手帳を持っている人だけでなく発達障がいの方やニート、ひきこもりの若者も対象にできないか考えてもらいたい。農業がそういった人たちの就業意欲に有効である。



写真は NSK48 のメンバーです。障がい者と農業をどう結び付けるか様々な角度から検討しています。

（ちなみに N: 農業、S: 障がい者、K: 雇用の略です。48 は特に意味ありません。）

※今後の予定

6月上旬までに県農林水産部担い手育成課の中西氏でアンケートの中身を再確認と修正をし、その後メールリストでメンバーの意見を聞き最終案を決定予定。最終案に基づき6月末までにアンケートをリストアップ先に送付、8月中旬までに回収・集計を行う予定です。

次回打ち合わせ

日時：2012年 8月 下旬 (未確定)

場所：アスト津3F みえ県民交流センター 交流スペース (予定)